

平成 27 年 4 月 23 日

城西大学

学長 森本 雍憲 殿

平成 26 年度城西大学動物実験自己点検・評価報告書の提出について

平成 26 年度の城西大学の動物実験に関する自己点検・評価報告書を作成致しましたので、ここに提出致します。

なお、自己点検・評価は以下の項目について実施致しました。

自己点検・評価項目

I 規程及び体制等の整備状況

- 1) 機関内規程
- 2) 各種委員会
- 3) 動物実験の実施体制
- 4) 実験施設の設置状況
- 5) 安全管理状況

II 実施状況

- 1) 動物実験委員会
- 2) 動物実験の実施状況
- 3) 実験動物の飼育保管環境
- 4) 教育訓練の実施状況
- 5) 自己点検・評価、情報公開

以上

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

松本 明世 (委員長)

和田 政裕 (副委員長)

古旗 賢二 (委員)

一色 恭徳 (委員)

内田 昌希 (委員)

平成 26 年度

城西大学動物実験自己点検・評価報告書

平成 27 年 4 月 23 日

城西大学動物実験管理自己点検評価委員会

本報告書は、城西大学動物実験規程第14章（自己点検・評価・検証）第55条に基づき、城西大学動物実験管理自己点検評価委員会が作成したものである。

作成日：平成27年4月20日

作成者：松本明世（委員長）、和田政裕（副委員長）、古旗賢二（委員）、一色恭徳（委員）、内田昌希（委員）

I 規程及び体制等の整備状況

1) 機関内規程

[現状と点検・評価]

「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」（以下「基本指針」と表記する）に適合する機関内規程（城西大学動物実験規程、平成 19 年 10 月 12 日制定・施行、平成 22 年 6 月 23 日一部改正）が定められており、適正であると判断できる。

薬学部の教室配属の関する制度改正に伴い、動物施設利用者の資格に変更が生じたので、施設利用者の資格に関し一部改正したが、現状の変更に関する適正な対応である。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 各種動物関連委員会

[現状と点検・評価]

基本指針に適合する「城西大学全学動物実験管理委員会」の下、「動物実験管理委員会」「動物実験委員会」「動物実験広報委員会」等、各種関連各種委員会が組織され、適正に運営されている。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

3) 動物実験の実施体制

[現状と点検・評価]

動物実験は城西大学動物実験規程第 9 章に従って実験計画の立案(動物実験計画書、書式 1)、審査、手続きを経、適正に実施される体制になっている。動物実験の終了時には実験結果報告書(書式 2)と動物実験終了・中止報告書(書式 8)の提出が定められており、適正と判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

4) 実験施設の設置状況

[現状と点検・評価]

動物の飼育と動物実験が実施された 6 号館、16 号館、18 号館の実験室、アイソトープセンター実験室、6 号館動物飼育室、16 号館動物飼育室、生命科学センター内実験室及び動物飼育施設はいずれも城西大学動物実験規程第 10 章第 37 条から第 42 条に従って設置管理され、城西大学全学動物実験管理委員会の承認を得たもので、動物実験に適切な施設であると判断できる（実験室設置承認申請書 書式 5、実験室設置承認書）。また実験動物の飼育・管理に関しては同規程第 11 章第 43 条から第 51 条に適合する施設が設置されている(飼育保管施設設置承認申請書 書式 4、飼育保管施設設置承認申請書)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 安全管理状況

[現状と点検・評価]

動物実験を実施する教員、大学院生、学部学生はすべて、城西大学動物実験管理委員会、生命科学センター、及び薬学部動物管理委員会が主催する「実験動物施設利用説明・講習会」に参加することが義務付けられており、安全管理体制は整備されている(実験動物施設利用の手引、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

II 実施状況

1) 動物実験委員会

[現状と点検・評価]

「城西大学動物実験規程」に基づき、委員会活動が実施されており、基本指針に適合し、適正に機能していると判断できる。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

2) 動物実験の実施状況

[現状と点検・評価]

平成 26 年度は 92 件の動物実験計画書が提出され、外部委員 2 名を含む動物実験委員会(6 名)で本学の動物実験規程に照らして審査した結果、すべての動物実験計画が許可された。動物実験委員会による動物実験計画書の審査は、厳正・適正に実施されたと判断できる。

動物実験を実施する教員、大学院生、学部学生はすべて、城西大学動物実験管理委員会、生命科学センター及び薬学部動物管理委員会が主催する「実験動物施設利用説明・講習会」(第 1 回 4 月 26 日及び第 2 回 5 月 10 日)に参加することが義務付けられており、動物実験の実施状況は良好であった[実験動物施設利用の手引き(生命科学センター、薬学部動物施設)]。平成 26 年度に実施された動物実験に関する動物実験計画書(書式 1)、動物実験結果報告書(書式 2)、動物実験計画(変更・追加)承認申請書(書式 3)、動物実験終了・中止報告書(書式 8)を精査した(平成 27 年 2 月 20 日)結果を別表にまとめて示した。別表の申請数とは最初の動物実験計画書の申請数であり、使用数は動物実験終了・中止報告書の使用数である。平成 26 年度の実験動物使用匹数は以下の通りである。

・ラット	4,710 頭
・マウス	5,151 頭
・モルモット	0 頭
・スナネズミ	20 頭
・トノサマガエル	60 頭

・ウサギ……………	127 頭
合計	10,068 頭

すべてにおいて所定の書式が提出され、申請数と使用数で開きがあるものについては、全て動物実験計画(変更・追加)承認申請書が提出されている。

平成 26 年度における動物実験に基づく研究成果は学会における発表 38 件、論文として 20 報が公開された。薬学科 6 年制 8 年目であり、研究する学生が増加し研究室の学生対応に時間が割かれ、一部では研究に対応できていない現状が窺われる。しかし、昨年度に比べると学会発表件数は同等であり、論文件数は増加している。研究成果が論文として実を結ぶためには、ある程度の期間が必要であると考えられるが、各研究室での研究の効率化を図り、意識的に論文としてまとめることが求められる。一方、実験計画書 92 件中 5 件の中止と多数の実験計画の変更があり、人事や学生の配属など不確定な中での実験計画書の作成ではあるが、試行的な実験計画ではなく、十分な論文検索を基に、精査した実験計画を提出することが求められる。

[改善方策]

動物実験の実施状況は昨年と比較し良好であり、論文数も増加している。しかし、その数は少なく、さらに論文作成に時間をかける必要があると考えられる。論文作成の過程で実験方法の見直しや結果の解析力が得られるので、論文作成を中心にした動物実験計画を立案することが望まれる。

3) 実験動物の飼育保管環境

[現状と点検・評価]

実験動物の飼育・管理に関しては城西大学動物実験規程第 11 章第 43 条から第 51 条に従って適正に実施された。東日本大震災の教訓から、動物飼育施設において、特に遺伝子改変動物の飼育に関しては、厳重な飼育場所と同時にネズミ返し等の防御策がとられ、また、可燃性のエーテルがプラスチックの箱の中に置かれ瓶が破損しないような対策が施されるなど、改善されている。

使用量が多い 6 号館動物飼育施設及び生命科学センター内実験室と動物飼育施設は、夏季に消毒が実施され、他の実験室や飼育室も適切に清掃されている。

[改善方策]

地震などによるケージの落下を想定し動物が逸走しないよう、飼育環境の整備に努め、また密室性が高いことを考慮し、可燃性有機溶媒の保管には引き続き注意することに努める。

まれに放置されている動物がいると思われるので、各研究室で飼育動物の管理に努める。

過去にあった野ネズミの侵入は、今年度は確認されてはいないが、引き続き注意することが必要である。

4) 教育訓練の実施状況

[現状と点検・評価]

平成 26 年度 第 1 回 4 月 26 日及び第 2 回 5 月 10 日に、動物実験に関わる全ての教員、大学院生、学部学生、研究生を対象とした実験動物施設利用説明・講習会が基本指針に沿って適正に開催された(実験動物施設利用の手引き、動物実験の適正な実施に向けたガイドライン)。

犠牲動物に対する慰霊祭は平成 27 年 3 月 7 日に動物慰霊祭が行われ、219 名の薬学部教員、学

生が参加した。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

5) 自己点検・評価、情報公開

[現状と点検・評価]

城西大学動物管理自己点検評価委員会による、平成 26 年度の動物実験管理に関する自己点検評価は、全ての動物実験結果報告書が提出され、各委員会の報告書も提出されており、ここに同報告書を作成することができた。情報公開については、従来より、大幅に情報公開を進め、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」にほぼ準じて、1) 全学動物管理委員会等の名簿、2) 城西大学動物実験自己点検・評価報告書、3) 動物実験に関する届出・計画書式が公開されている（平成 27 年 1 月 20 日）。なお、「外部評価報告書」は、国公立大学実験動物施設協会による外部検証実施後に、その報告書を公開する予定としている。

[改善方策]

改善すべき点は見当たらない。

平成26年度 動物実験実施状況(動物実験管理自己点検・評価委員会)

動物種 承認番号	動物申請数、使用数												研究成果(予定を含む)		
	ラット 申請数	使用数	マウス 申請数	使用数	モルモット 申請数	使用数	スナネズミ 申請数	使用数	トノサマカエル 申請数	使用数	ウサギ 申請数	使用数	学会発表	論文発表	備考
H26001	55	0	300	256	27	0							1		薬学会
H26002	50	32	320	400										1	Int J Pharm
H26003	60	20													
H26004	200	255	0	352										2	Drug Develop Ind Pharm, Chem Pharm Bull
H26005	200	69												3	Int J Pharm, Chem Pharm Bull, Eur J Pharm Sci
H26006	12	0													中止
H26007			60	795											
H26008	42	33													薬学実習Ⅲ、薬毒物分析
H26009	531	552	770	590				70	60						
H26010	210	210	357	357											
H26011	30	11													
H26012	45	45													
H26013	100	65													
H26014	144	130													
H26015	75	71													
H26016	400	276											2		薬剤学会、薬学会
H26017	300	136													薬剤学会、薬学会
H26018			60	60											薬学会関東支部会
H26019	72	72													
H26020	96	96	192	192										1	Eur J Pharm
H26021			40	40										1	Biol Pharm Bull
H26022	82	12													中止
H26023			450	165									2	1	
H26024	40	44											2		薬剤学会、薬学会
H26025	65	50											2		薬剤学会、薬学会
H26026	30	25												1	YAKUGAKUZASSHI
H26027	96	80													
H26028	112	90													
H26029	80	8												1	薬学会
H26030	8	0												1	埼玉医療薬学懇話会
H26031											75	45			
H26032	132	47												1	小児診療多職種研究会
H26033	84	58													
H26034											99	76	1		薬学会
H26035	28	25	28	17											
H26036			160	72											
H26037	220	210													
H26038			180	175											
H26039			180	180											
H26040							15	20							
H26041	27	16													
H26042	15	25													
H26043	120	136													
H26044	30	60													
H26045	30	30													
H26046	18	32													
H26047	80	36	42	0									1	2	薬学会、Lipids, Biol Pharm Bull
H26048	80	28	36	0									1	2	薬学会、Lipids, Biol Pharm Bull
H26049	80	12												1	薬学会
H26050	64	24	30	0									1	2	薬学会、Lipids, Biol Pharm Bull
H26051	24	24												3	薬性学会、薬学会関東支部会、薬学会
H26052	60	28	30	0										3	薬性学会、薬学会関東支部会、薬学会
H26053	120	120													
H26054	120	113												1	薬学会
H26055	120	132												2	補充代経医療学会、薬理学会
H26056	120	150													
H26057			120	120											
H26058			120	120											
H26059	120	120											2		補充代経医療学会、薬理学会
H26060			102	102											
H26061			72	72											
H26062			50	60											
H26063			98	187											
H26064			100	190											
H26065			128	128											
H26066			128	0											中止
H26067			32	32											
H26068			200	200									1		12th Asian Congress Nutrition
H26069			24	24											
H26070			96	0											
H26071	50	25													
H26072	100	49	100	23									1		1 薬学会関東支部会、Nutrients
H26073			21	0										1	
H26074	60	20													
H26075	0	15	46	0											
H26076			84	19											
H26077	120	110											1		3rd ICNCS
H26078			170	150									1		栄養・食糧学会
H26079	66	66													
H26080	66	66													
H26081	40	40	50	50											
H26082			20	17											
H26083	20	20												1	Biochem Biophys Res Commun
H26084	120	166											1		薬学会
H26085	278	237												3	栄養改善学会、生化学会、薬学会
H26086	70	63											1		分子生物学会、生化学会合同年会
H26087			30	6											
H26088											8	6			
H26089											8	0			
H26090			60	0											
H26091			40	0											
H26092	50	25											1		中止 栄養・食糧学会
計	5867	4710	5128	5151	27	0	15	20	70	60	190	127	38	20	

動物実験申請総数: 92件 中止件数: 5件 総使用動物数: 10,068匹 学会発表数: 38件 発表論文数: 20報

平成 26 年度 動物実験管理自己点検評価委員会活動報告

委員会名	動物実験管理自己点検評価委員会
委員	委員長 松本 明世 副委員長 和田 政裕 委員 古旗 賢二 一色 恭徳 野部 浩司
会議回数	1 回（メール会議）
実施状況と結果	各実験動物委員会報告を受け、取りまとめと評価についてメール会議を行った。 平成 26 年度 城西大学動物実験自己点検・評価報告書を学長に提出した。
活動の評価	ほぼ予定通りに行った。

平成26年度 動物実験委員会活動報告書

委員会メンバー：荻原政彦（委員長）、小林順（副委員長）、清水純、木村光利
内田干城（外部委員）、平ふみ子（外部委員）、
三橋秀行（事務局）、玉井彩子（事務局）、浦野重之（事務局長）

1 平成26年度の動物実験委員会活動計画

- 1) 平成26年度の動物実験管理委員会への動物実験実施計画書の募集を依頼
- 2) 定期的な動物実験実施計画書の審査を実施
- 3) 臨時の動物実験実施計画書の募集とその審査を実施
- 4) 動物実験管理委員会へ動物実験実施報告書の提出を依頼
- 5) 動物実験管理委員会へ新規実験室設置承認申請書の提出依頼と調査の実施依頼

2 平成26年度の動物実験委員会活動報告

(1) 外部委員出席の下で、定期的な動物実験実施計画書の審査を実施した。

- 1) 日時：平成26年4月2日、12時00分～13時00分、於：薬学部小会議室
申請書類数88件（受付番号H26001～26088）（延べ91件、内新規動物実験実施計画書15件）が提出された。

本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

- 2) 日時：平成26年9月24日、12時30分～13時00分、於：薬学部小会議室
計画変更届3件、新規動物実験実施計画書4件（H26089～26092）が提出された。
本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

(2) 動物実験管理委員会から提出された動物実験実施報告書の審査を実施した。

日時：平成27年4月7日、12時00分～13時00分、於：薬学部小会議室。
実施報告書92件（承認番号H26001～H26092）（延べ95件）が提出された。
本学の動物実験規定に照らした審査を実施し、全て承認された。

尚、動物種および動物数が極端に変更される実験に関しては、内容が新規の計画に相当すると考えられるため、申請者は、計画書作成時に慎重に計画を立てる必要がある。このような場合には、大幅な変更が生じた時点で直ちに動物実験管理委員会へ変更届を提出し、動物実験管理委員会においては、その内容を再審査することを要請した。

3 平成26年度の動物実験委員会活動の自己評価

年度当初の活動計画を実行できたものと考えられる。

4 その他

以上

平成27年4月7日（火）荻原政彦（委員長）

平成26年度委員会報告

委員会名	動物実験広報委員会
委員	委員長 津田 整 副委員長 荒田洋一郎 委員 加園恵三、工藤なをみ、須永克佳、上田秀雄
会議回数	5回 (情報公開の具体案作成について、平成26年度活動報告について)
年度始めの計画	城西大学全学動物実験管理委員会の活動をホームページ等により広報する。
実施状況と結果	<p>実施状況</p> <p>全学動物実験管理委員会委員長より、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」に基づく情報公開の具体案作成依頼（平成26年10月16日付）があり、動物実験広報委員会を開催した。協議の結果、「動物実験に関する情報公開具体案について」を平成26年11月24日に全学動物実験管理委員会委員長に回答した。</p> <p>平成27年1月9日に全学動物実験委員会より、HP上で以下の内容を追加公開するように指示があり、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全学動物管理委員会等の名簿 2) 城西大学動物実験自己点検・評価報告書 3) 動物実験に関する届出・計画書式 4) 外部検証による検証結果報告書* <p>を1月20日に公開した。</p> <p>*外部評価報告書は、国公立大学実験動物施設協会による外部検証実施後に、その報告書を公開することとした。</p>
自己評価	従来の広報より、大幅に情報公開を進め、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」にほぼ準じた内容となった。外部検証後に指摘項目に対応する計画であり、順当な活動と評価できる。

平成 26 年度動物実験広報委員会第一回会議録

平成 26 年 10 月 18 日 12 : 50 ~

出席者：荒田、工藤、須永、上田、津田

公務出張：加園

1. 動物実験関連の情報公開具体案について

全学動物実験管理委員会委員長より、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」に基づく情報公開の具体案作成依頼（平成 26 年 10 月 16 日付）があったことの報告があり、参考資料「文部科学省が所管する機関の動物実験に関する情報公開度調査」を委員間で回覧、他機関の情報公開状況を HP で確認したうえで、後日検討することとした。

平成 26 年度動物実験広報委員会第二回会議録

平成 26 年 10 月 27 日 18 : 00 ~

出席者：荒田、加園、工藤、須永、上田、津田

1. 動物実験関連の情報公開具体案について

下記の意見があげられ、文部科学省による説明会の内容、本学の動物実験自己点検・自己評価委員会の報告書を確認し、再度委員会を開催することとした。

- ・文部科学省が求めている情報公開が、どの程度を求めているかを知る必要がある。
- ・何をどこまで公開するかを決めることが必要である。
- ・参考資料「文部科学省が所管する機関の動物実験に関する情報公開度調査」に挙げられている項目の情報公開が可能か（データがあるか）？
- ・文部科学省が説明会を開催したとの情報があり、その内容を確認しては。
- ・他機関では、自己点検報告書を HP に公開している例がある。本学の動物実験自己点検・自己評価委員会の報告書の内容の確認が必要では。
- ・HP で公開するとすれば、現行の全学動物実験委員会のページを見やすいものにした方が良い。

平成 26 年度動物実験広報委員会第三回会議録

平成 26 年 11 月 15 日 17:00～

出席者：荒田、加園、工藤、須永、津田

オブザーバー：木村（光）

欠席者：上田（事前に意見聴取）

1. 動物実験関連の情報公開具体案について

文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等に関する説明会（平成 26 年 9 月 8 日）に出席した木村光利助教にオブザーバー出席を依頼し、説明会の概要を説明いただいた。

委員間での討議の結果、自己点検報告書、委員会名簿、届出書式を、城西大学ホームページ上で公開することにより、情報公開としてほぼ要望を満たせるとの結論となり、外部評価を受けることになれば、その指摘に従い、情報公開項目を追加する手順をとることが望ましいとの意見で一致した。これを、情報公開具体案として全学動物実験管理委員会委員長に報告することとした。

平成 26 年度動物実験広報委員会第 4 回会議録

平成 26 年 11 月 20 日

出席者：荒田、加園、工藤、上田、須永、津田（メール会議）

1. 全学動物実験管理委員会委員長への具体案報告書について
原案を承認した。

平成 26 年度動物実験広報委員会第 5 回会議録

平成 27 年 3 月 26 日

出席者：荒田、加園、工藤、上田、須永、津田（メール会議）

1. 平成 26 年度活動報告書について
平成 26 年度活動報告書を承認した。

平成 26 年 11 月 24 日

全学動物実験管理委員会

委員長 森本 雍憲 殿

動物実験に関する情報公開具体案について

動物実験広報委員会

委員長 津田 整

副委員長 荒田 洋一郎

委員 加園 恵三

工藤 なをみ

須永 克佳

上田 秀雄

全学動物実験管理委員会委員長より、平成 26 年 10 月 16 日付で「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」に基づく情報公開の具体案作成の依頼に対し、動物実験広報委員会において検討した結果、以下の結論となりました。全学動物実験管理委員会でご判断くださいますようお願いいたします。

1. 全学動物実験管理委員会等の名簿
 2. 城西大学動物実験自己点検・評価報告書
 3. 動物実験に関する届出・計画書書式
- の 3 点を、大学ホームページ上で公開する。

本件につきまして、文部科学省「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等に関する説明会（平成 26 年 9 月 8 日）で公開が必要な内容として次の 12 項目が指摘されております。

1. 動物実験委員会の名簿
2. 動物実験の実施体制
3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制（遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制）
4. 実験動物の飼養保管の体制
5. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）
6. 動物実験の実施状況（動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか）
7. 安全管理を要する動物実験の実施状況（当該実験が安全に実施されているか）
8. 実験動物の飼養保管状況（実験動物管理者の活動は適切か。飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか）

9. 施設等の維持管理の状況（機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか。修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか）
10. 教育訓練の実施状況（実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練を実施しているか）
11. 自己点検・評価、情報公開（基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか）
12. その他（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果上記12項目に関し、それぞれ1）評価結果、2）自己点検の対象とした資料、3）評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する）、4）改善の方針、達成予定時期 が必要

なお、説明会の内容から所管官庁は100%公開を求めている訳ではないと推測されます。

また、NPO法人地球生物会議による「文部科学省が所管する機関の動物実験に関する情報公開度調査」にある調査項目は、次の15項目です。

1. 動物実験規程（指針）
2. 自己点検・評価報告書
3. 動物実験計画書または動物実験件数
4. 実験動物使用数
5. 実験動物飼養保管数
6. 飼養保管施設または実験室の数
7. 教育訓練実施状況
8. 外部検証・評価報告書
9. 計画書フォーム
10. 委員名簿
11. 委員会活動実績
12. 研究成果（論文・学会発表等数）
13. 実験従事者／飼育者数
14. 苦痛カテゴリーに関する指針
15. 研究種別に関する統計

動物実験広報委員会での検討では、「城西大学動物実験自己点検・評価報告書」には上記15項目の多くを含んでおり、公開すべき範囲として、全学動物実験管理委員会等の名簿、動物実験に関する届出・計画書書式を加えることで、文部科学省・厚生労働省の要望にほぼ応えることができると判断いたしました。また、文部科学省は外部評価の実施を求めています。外部評価を受けた上で、指摘された点を順次改善する方策が望ましいと考えました。ご検討、ご判断をよろしくお願い致します。

平成 26 年度動物実験管理委員会活動報告

委員会名	動物実験管理委員会
メンバー	委員長 夏目、副委員長 真野、林、岡崎、田中享、金、山崎、小川 (JAC)
会議回数	3 回 (メール会議 1 回含) 議事録は別紙添付
年度初めの計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・訓練の実施 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出および加筆訂正 3. 平成 26 年度動物実験結果報告書の作成依頼および加筆訂正 4. 平成 27 年度動物実験計画書等の作成依頼 5. 動物慰霊祭の開催 → 生命研、薬学部動物管理委員会合同 6. 平成 26 年度動物実験結果報告書、平成 27 年度動物実験計画書等の提出 → 全学動物実験管理委員会へ 7. 以下の項目を適宜、指導、実施する。 規定第 20 条 2 の(2)、(3)、(6)
実施状況結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全学動物実験管理委員会、生命科学研究センターおよび薬学部動物管理委員会との合同で、平成 26 年度「動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会」を開催した (第 1 回 4 月 26 日 (土) および第 2 回 5 月 10 日 (土) 15:30~、6-22)。 2. 中間期での動物実験計画書、動物実験室等の追加等の提出を依頼し (7 月)、加筆訂正後、全学動物実験委員会に提出した (9 月)。 3. 平成 26 年度動物実験結果報告書の作成を依頼し (平成 27 年 1 月)、加筆訂正した (平成 27 年 3 月)。 4. 平成 26 年度動物実験計画書等の作成を依頼し (平成 27 年 1 月)、加筆訂正した (平成 27 年 3 月)。 5. 全学動物実験管理委員会から依頼のあった動物慰霊祭を薬学部動物管理委員会と共に開催した。 日時: 平成 27 年 3 月 7 日 (土) 13:30~ 場所: 10 号館 102 6. 平成 26 年度動物実験結果報告書、平成 27 年度動物実験計画書等を全学動物実験管理委員会へ提出した (平成 27 年 3 月)。 7. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 次年度の動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の開催日時を協議した。 2) 薬学部動物施設および生命科学研究センターの平成 26 年度の飼養に関して点検し、各施設から飼養報告書が提出された (別紙添付)。

活動の 評価	<ol style="list-style-type: none">1. 概ね滞りなく行った。2. 動物搬入時の保管を徹底した。3. 第 1 回動物管理・実験に関する教育訓練および施設利用説明・講習会の参加者は 280 名、第 2 回は 254 名であった。3. 動物慰霊祭は、219 名が参加して行われた。
-----------	---

平成26年度第1回動物実験管理委員会 議事録 メール会議

参加者：夏目、真野、岡崎、金、田中享、山崎、林

日時：平成26年4月17日（木）

議題：1. 4月26日（土）および5月10日（土）に開催予定の「第1回および第2回の動物管理に関する教育訓練および施設利用方法講習会」の役割分担について協議し、決定した。

2. ビデオによる講習会について

毎年、2回目の講習会は、1回目の講習会のビデオを用いていたが、今年度より両日ともに担当者が行うこととした。

3. 医療栄養学科で、栄養生理学実習内で行う教育訓練について

全体的な講義を夏目が、6号館の動物施設の利用に関して金が説明することにし。

3. 平成26年度の計画（案）について協議し、決定した。